

# 下田歌子記念女性総合研究所 ニューズレター

No.12  
2019年2月

## 建学の精神と創立者への想い

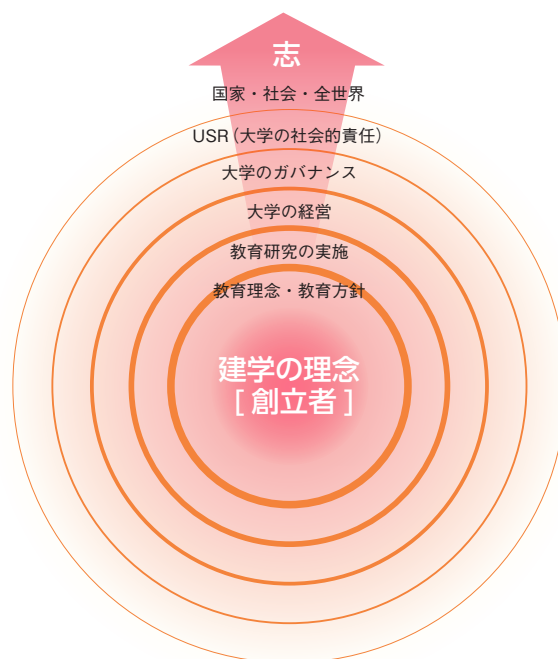


理事長  
井原 徹

「私立大学」は「志立大学」でなければ、単なる金儲けの「学校屋」になってしまう。志を持って、人材を育成する社会の公器としての自覚と誇りをもつことが大切である。創立者の創立の理念・精神を受け継ぎ、現代の社会で通用する理念・概念に仕立てて、社会に訴え、理解してもらい、更に評価してもらう努力をしなければ、淘汰される。

本学園は2019年に創立120周年を迎える。5月7日の創立記念日には、学祖下田歌子先生の生誕の地である岐阜県恵那市岩村町の、下田先生顕彰碑のある広場にて記念式典を催す。これは私の強い要望によるが、私は式典に下田歌子先生に参加してもらいたいのである。一時低迷していた本学園が勢いと評価を取り戻しつつあることを、下田先生に語り掛けることが式典の意味だと思う。残念ながら私はその時には理事長ではない。

私たちは、下田先生が国を思い、女性の活躍を願ってこの学園を創ったことを、片時も忘れてはならない。「揺籃を揺がすの手は、以て能く天下を動かすことを得べし。」「女性の清らかな特性と豊かな情操をもって社会の弊を正せ。」と、女性を鼓舞した人である。いま盛んに男女共同参画社会の形成が叫ばれているが、下田先生は、あの明治という男尊女卑の風潮が強かった時代に、すでに男女共同参画を唱えていたのである。その実践の場として学校を創ったのである。私たち実践女子学園に関係する者は皆、この下田先生のDNAを継いでいる。理事長も学長も教職員全員が、下田先生を落胆させてはならないと思う。



私はこの学園に関わりしばらくすると、学園全体の致命的な欠陥が見えてきた。創立当初から社会の支持を得て、順調に発展してきた当学園が、何故もこう低迷しているのか。答えは創立者への想いが薄らいだことや、偏差値の社会への浸透によって、過去の偏差値が無い時代の下田歌子が創立した当学園のプレステージが、偏差値体系に組み込まれ、さしたる特徴のない中小規模女子大になっていたからである。

これでは生き残りすら危ないと考え、創立者の志をもう一度徹底的に研究し、世に問うということを決めた。そのために、研究所の設立を決心した。前史として、2011(平成23)年7月プロジェクト研究所である「下田歌子研究所」が有志によって設置。次いでその実績を踏まえて「学園(法人)附置・下田歌子研究所」を立ち上げた。更に、事業内容の拡大・充実を図り、改称の上、2018(平成30)年4月に「実践女子大学附置・下田歌子記念女性総合研究所」が活動を開始した。

この学園は下田歌子先生が創った学校であり、下田先生を核として進んでいくしかない、そんな当たり前のことを、下田先生への感謝とともに、今しみじみ思う。研究所の今後の活動に大いに期待したい。

(いはら とおる 本学理事長)

## 朝ドラの後に来るもの



第1部門 客員研究員  
鈴木 隆一

NHKの連続テレビ小説「半分、青い。」が9月29日に終わりました。

今、私が住んでいる岩村町と、かつて勤めていた学校がロケの場所だったこと、展開の早い話について引き込まれ、一日も欠かすことなく最後まで見てしまいました。

半年にわたる平均視聴率は20%台を維持したとのこと、まずは他人事ながら安堵しました。

毎回、その日の放送が終わるや否や、感情むき出しの文字が次から次へと文章になっていくSNSの時代。とにかくインターネットへの書き込みは凄いものがあります。読んで心地良いものもありますが、不快になるものもあります。書いた人の顔が見えないため、一方通行で相手への思いやりなど一欠片もないものもあり、嫌悪感さえ覚えます。

それにしても、話には聞いていましたがNHKの全国放送の妻さをまざまざと見、感じることができました。

5月の連休、夏休み(特にお盆の休み)、9月の連休。国の重要伝統的建造物群保存地区として文化財に選定されている岩村の本通りは人人人で溢れ、特に五平餅屋さんの前には何十メートルにも及ぶ行列が出来ました。

岐阜県東濃5市と可児市でつくるツーリズム東美濃協議会では、経済波及効果は約32億円強と試算していましたが、放送終了後はどう考えて行くかが課題です。大河ドラマしかり朝ドラしかりで、どのロケ地へも多くの人が「聖地巡礼」で訪れますが、それとは別に岩村の奥深い魅力を発見し、感じて、もう一度訪れてみたいと思ってもらえたら…と期待しています。

放送が終わって2ヶ月



銘菓「歌子の里」などのお土産



JTB 感動案内人

経った今日も、朝から観光バスと他県ナンバーの車が駐車場を一杯埋めています。

さて、今年には1868年の明治維新から数えて150年目に当たります。明治150年です。全国各地で記念事業が繰り広げられています。明治時代の歴史的遺産や活躍した人物、和魂洋才の精神とグローバル化などをもう一度学び、現代に活かそうというものです。

いよいよ来年は、岩村町出身で日本の女子教育の先駆者として知られている下田歌子先生が東京で実践女子学園を創設されて120年を迎えます。明治4(1871)年、16歳で東京へ出たのち皇室へ出仕し皇女の教育掛などを務め、イギリスを始め欧米諸国の女子教育の様子をつぶさに視察し、帰国後は日本の女子力を高めることが急務として女子教育に一生を捧げられました。男性中心の社会のなかで、大きな志を抱き、固い信念のもと女性の社会的地位の向上と自立を促した事績を改めて学び、現代社会のなかでの女性のあり方を考え直したいものです。

また、NHKの大河ドラマでは「西郷どん」が放送されています。これも明治150年に因んでのことでしょう。このドラマも、好くも悪くも多くの人たちからSNS上に曝されています。余り世に知られていませんが、西郷さんは、幕末の岩村藩出身の儒学者佐藤一斎の「言志四録」の愛読者でした。「言志四録」1133条から自分の魂に触れ、生き方に大きな影響を与えた箴言101か条を抜き書きし「南洲手抄言志録」として纏めました。

グローバル化が加速する今こそ、明治から現在に至るまで精神文化を大切にきた日本を改めて見直すためにも、佐藤一斎、下田歌子、三好學(植物学者・理学博士、桜と花ショウブの研究者。「環境があってそこに人間が存在する」という言葉を残している)など、先人に恵まれた岩村で先人の精神と教えを学ぶことが、朝ドラの後の岩村の課題を解決する一つの方法と私は考えています。

その意味でも、来年の実践女子学園創立120周年記念式典が歌子先生の生誕の地・岩村で行われ、参加者が学祖の偉業を偲ぶとともに未来への飛躍を誓われることに、とても大きな意義があると思います。(2018(平成30)年11月30日記)  
(すずき りゅういち 実践女子学園岩村町親善大使、NPO 法人いわむら一斎塾 理事長)



恵那市立岩邑小学校 先人教育



恵那市立岩邑中学校 進路講話



## キャリア形成活動を通して感じること



第2部門 兼務研究員  
牛腸 ヒロミ

2018(平成30)年度の下田歌子記念女性総合研究所の日野キャンパスでの常磐祭における講演会の講師は、生活科学部食生活科学科の前身である家政学部食物学科を1996(平成8)年度に卒業した某超有名中高一貫女子校にお勤めの麻生愛子先生でした。「私立学校で家庭科教員に携わって～実践報告と後輩に伝えたいこと～」と題して、どのような思いで現在の地位を築いたのかを、自分史を振り返りつつ、自分を見つめなおし、後輩へ熱い思いを投げかけました。



社会に出て、働くということはどのようなことか、どんな仕事がしたいのか、自分を活かすための仕事とは等々、学生たちは将来のことをいろいろと考えています。そこで等身大のロールモデルとして卒業生をお招きし、各自のキャリアを語っていただくことによって、在学生のキャリアデザイン創生をサポートし、キャリア形成の一助にしたいと思って、皆と一緒に走り続けて4年が過ぎようとしています。

卒業生を講師に招いて、それぞれのキャリアを語っていただく講演会は、日野キャンパスでは、2015(平成27)年の常磐祭で、実践女子大学男女共同参画推進室と生活科学部と女性キャリア形成研究所が共催した“女性キャリア探求”スペシャルトークがはじめです。第1部の先輩からのメッセージで自身のキャリアを語ったOGお二人は、本学生活環境学科卒業後、DHCで総合職として働き、その後、スターバックスの総合職に転職して在学中の専門教育を仕事に活かしている高澤由香里さんと、生活文化学科を卒業してカナダに留学し、その後、大手貿易会社に就職し、さらなるキャリアアップのために再度留学を計画していた山田早耶

香さんでした。人気企業を射止めた就職活動の実際や、それぞれの会社での仕事内容や自分の手で道を切り開くフロンティア精神を語って



いただき、後輩へのメッセージを頂きました。とても魅力的なお二人でした。このような企画は、その後“社会人トーク”と称して今年度まで続き、各界の若手在職者をお招きし、彼女たちのキャリアとキャリア形成について語っていただき、在学生のキャリア形成に影響を及ぼしています。

常磐祭での講演会では、2回目以降は教職に絞ってOGにお話ししていただいています。2016(平成28)年度は、1975(昭和50)年に本学家政学部食物学科を卒業し、埼玉県公立高等学校家庭科教諭、教育センター指導主事、県立高校等の教頭・校長を経て、全国高等学校家庭クラブ連盟、一般財団法人家庭クラブ事務局長を務めていらした大野由喜子先生をお招きして、「女性キャリアとしての教職」と題して、教職のやりがいと魅力についてお話いただきました。

2017(平成29)年度は、2015(平成27)年度に本学生活科学部生活環境学科を卒業して、千葉黎明学園千葉黎明高校家庭科・情報科教諭として、家庭科主任、1学年副担任、卓球部部长、入試部、情報管理部業務をこなしている若手の岩井沙都美先生をお招きしました。岩井先生の大学時代のゼミ活動や卒業論文のこと、思い出やエピソードなどからご講演が始まり、現職について、在学中の就活についてなど、在学生の側に立っての楽しく有意義な講演でした。講演終了後は、教職希望の学生たちが次々に質問をして活発に議論がなされました。



在学生のキャリア形成のための様々な企画を通して、本学卒業生の在校生への思いと、その背景にある母校への思いをひしひしと感じました。このような卒業生に接するたびに、私たちがその思いに応えるべく、在校生・卒業生が必要としている活動をしなればと身が引き締まる思いです。自ら考え行動し、生き生きと自分らしく生きることが出来る魅力ある女子大生を育てるために、今後も努めてまいります。

(ごちょう ひろみ 実践女子大学生生活科学部 教授)

## 異国の女性の軌跡から学ぶ



第2部門 兼務研究員  
志渡岡 理恵

2018（平成30）年度より、下田歌子記念女性総合研究所の第2部門の兼務研究員となりました。実践女子大学では英文学科に所属しています。研究分野はイギリス文学・文化で、とくに女性作家に関心があり、「女性は生きることをどのように捉え、どのように表現してきたのだろう」という問いを出発点に、女性作家の作品およびキャリアについて研究しています。

私は、子どもの頃から本を読むのが大好きで、家の本棚に並んでいた中央公論社の『世界の文学』全54巻を、「今日はどれを読もうかな」と登場人物リストを見ながら選んで読んでいたのを覚えています。小学年のときにはシェイクスピアの『アントニーとクレオパトラ』を、中学生のときにはジッダの『狭き門』を、高校生ときにはオースティンの『エマ』を愛読していました。

お茶の水女子大学では、1年生のときに野島秀勝先生の授業でオースティンの『分別と多感』を原書で読み、ますますオースティンが好きになり、卒業論文では『高慢と偏見』をとりあげました。今でもオースティンは一番好きな作家です。修士論文では、内田正子先生のご指導を受けながら、20世紀前半のモダニズムの代表的作家ウルフについて論じました。

ウルフはフェミニストでもあり、『自分だけの部屋』の中で、歴史には女性に関する記述があまりにも少ないこと、文学には女性作家の伝統と呼べるものが存在しないことを指摘し、それを変えていく必要性を訴えています。私は、博士課程在籍中から、マイクロフィッシュなどを利用し、無名の女性作家の作品を夢中で読み始めました。現在もっとも力を入れているのは、女性の旅行記と女子の学校小説の分析です。

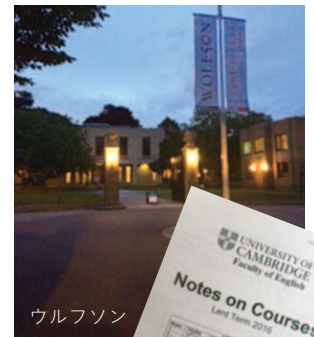
旅行記も学校小説も、女性解放に大きな影響を及ぼ

しました。どちらのジャンルも、家庭の「外」へ出ていく女性たちが主役です。彼女たちは、「家庭の天使」とは異なる生き方を模索し、それぞれのスタイルで道を切り拓いていきます。私は、担当科目のひとつ「女性と英語圏文学 a」で、これらを含むイギリスの女性作家の作品を多数とりあげていますが、学生の皆さんには、異国の女性たちの生の軌跡を知ることにより、世界の広さと多様性を、その中で生き抜く勇気と術を、学んでほしいと思っています。

本学の学祖である下田歌子は、欧米で視察を行い、イギリスの女子教育からも多くのものを採り入れました。学校小説などを分析することにより女子教育について考察することは、本学の教育理念ばかりでなく、社会における女子大学の役割や女性のキャリア形成についても理解を深めることにつながります。私は、2015（平成27）年度、在外研修の機会をいただき、イギリスのケンブリッジ大学英文学科で客員研究員として1年間リサーチを行いました。ケンブリッジ大学には女子高等教育の先陣を切った女子学寮ガートン（現在は男子学生も所属）とニューナムがあります。ガートン出身の医師で作家のエルダーは、女子大生小説『ケンブリッジの女子奨学生』の中で、主人公モニカが「ひとは自分自身の人生を生きるべきである」と認識する姿を描いています。誰かの真似をするのではなく、主体的に人生を歩んでいくモニカは、まさに「自立自営」しうる女性のひとつのモデルと言えるでしょう。

コスモポリタンな学寮ウルフソンで生活しながら、私は、ケンブリッジ大学の手厚い教育システムから多くの刺激を受けました。この貴重な経験は、今後の教育・研究活動に活かしてまいります。そして、学生の皆さんがそれぞれのスタイルで自分の人生を創っていけるように、サポートしていきたいと考えています。

（しどおかりえ 実践女子大学文学部 准教授）



ウルフソン

シラバス



## 下田先生に関連する石碑等 (2) 平尾守芳公・下田歌子先生顕彰碑公園

奥島 尚樹

発見シリーズのような感じになっているが、今回は岩村町の鈴木隆一先生より最近御寄贈いただいた資料をもとに調査をおこなった石碑について報告したい。

御寄贈いただいた「平尾守芳公・下田歌子先生顕彰会『歌人教育者 下田歌子先生のおもかげ』平成8年」によると、歌碑の所在地は「群馬県藤岡市本郷寺山1575番地 平尾守芳公・下田歌子先生顕彰碑公園内」となっているが、Google マップ、Yahoo! 地図、等では所番地での特定はできなかった。Google マップには「史跡」として提案を送り承認されたので、現在は検索が可能となっている。ナビ等で住所を特定する場合は、藤岡市本郷1577にセブン・イレブン藤岡本郷店が登録されており、その裏手に当該顕彰碑公園があるので、「藤岡市本郷1577」番地を目的地に設定すると間違いはないと思う。藤岡の駅からは少々距離があることから、現地を訪問する場合は駅からであればタクシーを利用することになる。

余談ではあるが、昭和に行われた市町村合併、さらには平成に行われた市町村合併により、古い時代の住所表記や地番等が失われたところが多く、特に大字や小字といった「字(あざ)」のほとんどが住所表記から失われてしまっており、特に古い石碑等に関する資料に記載されている住所表記からは目的地に到達できないことが多くある。今回目的地に到達



図1: 公園の位置 (Google マップ)



図2: 顕彰碑公園の標石

するに至ったのは、『歌人教育者 下田歌子先生のおもかげ』に掲載されていた写真によるところが多いが、具体的には藤岡市立図書館に伺った際ご対応いただいた図書館の方々のお力によるところが大である。特に「字」について示唆いただいたおかげで調査する面積を狭めることができ、調査すべきポイントとしての場所を特定することができた。

当該資料によると、この公園は当初「平尾守芳公顕彰碑公園」として計画され、その後「平尾守芳公」の子孫が「下田歌子先生」であることがわかり、「平尾守芳公・下田歌子先生 顕彰碑公園」として整備されたものとのことである。下田先生の遠祖である平尾守芳公は、出身は信州佐久であるが、藤岡に国替えとなった後「藤岡に移った守芳公は、常ヶ丘城を築き、城の鬼門除けとして龍田寺を建立するとともに、平尾大社(八幡大社)をこの地に勧請した。守芳公は、天地の恵みに感謝し、神を敬い、祖先の労苦を偲び、その心をもって城の麓に貯水池(上の池)を作り、笹川を掘り、一の沼、二の沼、三の沼をつくるなど水田開発や、村造り、城下町造りに力を注ぎ、この地の発展に大きな功績を残した、と伝えられている。まさに、我が郷土開拓の父と言われるに値する大事業であった。」(「郷土開拓の父 平尾守芳公顕彰碑の記」平尾守芳公顕彰会 抜粋)とあり、まずは平尾守芳公の顕彰を目的として石碑の設置が検討された。平尾守芳公が建立した龍田寺は移転してしまっていたが、新しい場所が確認できたのでいずれ正式に訪問し、寺の由来や移転に関しての詳細をうかがう機会をもてればと考えている。

今回調査した歌碑の建立に関わる年月日が平成8年5月、8月、10月となっているが、碑に記載されている日付に関しては、平尾守芳公と下田先生に関連



図3：下田先生歌碑

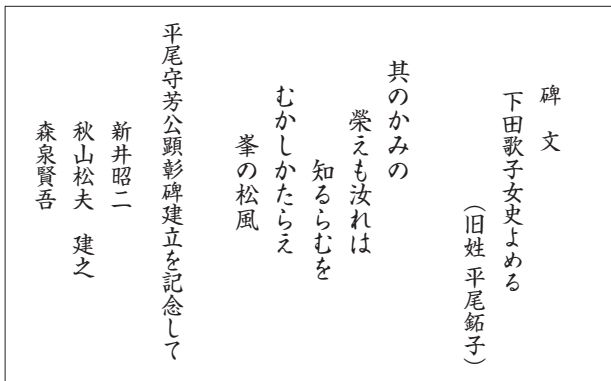


図4：下田先生歌碑内容

した日付を用いているものであり、下田先生に関して8月8日は誕生日、10月8日はご命日となっている。5月27日については「平尾守芳公顕彰碑の記」に記載されている内容によると「実に九十八歳、寛永十四年（一六三七）六月二十七日この地にて歿した。」となっている。旧暦での換算かとも思い計算したが、残念ながら適切な日付にはならなかった。

下田先生の歌碑には上記の歌が刻まれている。この歌について「下田先生のおもかげ」には、「この歌は、先生が明治32年7月信越地方に講演旅行をされた折に、かねてより亡父録藏から「時あらば尋ねてみよ」と言い遺されていたことを思い、現地には行けなかったが、車中から遙かな平尾山・平尾城址を偲び詠まれた歌である。現地は城址だけであることを聞き「栄えし昔のことをつぶさに語らえ」と、その心情を山頂の松に語りかけて詠まれた歌である。」と書かれており、下田先生が書かれた『信越紀行』（香雪叢書第1巻「紀行随筆よもぎむぐら」p.364 収録）の中で見ることができる歌である。

『信越紀行』の時には遠租の跡を訪ねることはできなかったが、その後大正9年と昭和9年の二回訪ねることができ、佐久市の「守芳院」には平尾守芳公の

御霊祠「当院開基 平尾弾正源守芳殿御霊祠」があり、その前には下田先生が献灯された灯籠2基が今も残っており、さらに下田先生の三回忌（昭和13年）に建立された「頌徳碑」も山門内側で見ることができる。また、佐久の望月町にある熊野神社にも先生が献灯されたお名前が入った灯籠があり、その灯籠献灯30周年を記念して昭和36年に氏子の方々によって建立された下田先生の歌碑がある。群馬と長野との境界付近には、下田先生と信州との深いご縁を感じることでできる場所が点在している。長野方面に車で向かうような時に関越自動車道を利用すると藤岡JCTを通過することになるかと思うが、時間に余裕をもって藤岡ICで高速を降り「平尾守芳公・下田歌子先生顕彰碑公園」へ、もしくは少し遠くなるが藤岡ICから上信越自動車道に入り、佐久平PA（下り）からであれば連絡道路を通過して佐久平PA（上り）（佐久ハイウェイオアシス「パラダ」側）に回り、佐久平スマートインターを出れば、守芳院と平尾大社はすぐそばである。実践の関係者は是非ともこれらの石碑を見に行ってもらえればと思うところである。「守芳院」と「頌徳碑」に関しては、「下田歌子研究所ニューズレター No.08」（拙著文章）に詳しく記述したので、参照していただけると幸いである。

平成の時代に入って、なお平尾守芳公および下田歌子先生の顕彰碑を建立される自治体の皆様の思いには頭が下がる。できうれば「平尾守芳公・下田歌子先生顕彰碑公園」の知名度がこの文章によって多少でも上がり、長期にわたり碑が残ってくれればと願っている。



図5：平尾守芳公顕彰碑

【参考資料】

- 1) 下田歌子先生顕彰会編集『歌人・教育者 下田歌子先生のおもかげ』平成8(1996)年
- 2) 平尾守芳公顕彰会編集『郷土開拓の父 平尾守芳公顕彰碑建設記念のしおり』平成8(1996)年
- 3) 榎澤龍吉著『平尾守芳とその一統 郷土を拓いた戦国武将』（株）樫（いちい）昭和62年
- 4) 「平尾大社と守芳院（佐久市）」下田歌子研究所ニューズレターNo.08 2017.1

（おくしま なおき 香雪記念資料館 事務室部長）



# 2018年度 活動報告

本研究所は、今年度から「下田歌子記念女性総合研究所」へと名称変更しました。それにもない、研究所の目的を「創立者下田歌子と実践女子学園の業績を検証するとともに、女性に関して、学際的・総合的な研究を行うことを通じて、女性の社会的地位の向上に寄与すること」に改めました。その目的を達成するために、研究所内に2つの部門を作りました。従来行ってきた下田歌子および学園に関する調査・研究を継続し発展させる「第1部門」と、新たに女性のキャリア形成や社会進出に関する研究を総合的に発信する「第2部門」です。以下に、それぞれの活動を報告します。

## 第1部門

### 1. 第1回研究会開催「下田歌子先生小伝」の記載内容の訂正、増補について

1. 日時：8月27日(月)、  
日野キャンパス本館  
349教室  
10：00～16：00



2. 日時：8月30日(木)、  
日野キャンパス本館241  
(下田歌子記念女性総合研究所) 10：00～16：00

第1部門では、上記の2日間にわたり研究会を開催し「下田歌子先生小伝」の再検討を行いました。

「下田歌子先生小伝」は、下田先生の略伝を紹介するとともに、学園に脈々と流れる教育の精神を受け継ぎ伝え

ていく目的で編まれ、昭和57(1982)年8月8日に発行されました。そして創立120周年を迎えようとする今、この「小伝」を見直し、再検討するのが研究会開催の主旨です。今回は「小伝」内の「下田歌子略年譜」の原拠資料との照合による事実誤認の訂正や、新たな資料の発見による事項増補など、これまでの下田研究から一歩を踏み出す成果を挙げ、実り多い研究会となりました。これまでも本研究所では、研究員を中心に定期的に研究会を開催していましたが、改めてこのような基礎的ともいえる作業に取り組む意義は大きいと考えます。

その他にも、下田の建学の精神をふまえつつ、広く社会に発信する活動を積極的に行いました。

### 2. 展示など「渋谷・日野校地の古今」とした学園の歴史や下田先生の「志」を中心テーマにその業績を辿る展示を実施しました。

#### ・ツカモト資料館「聚心庵」(滋賀県東近江市五個荘) 展示協力・訪問

9月23日(日)、淡海女子実務学校(後の淡海実践女学校)創立者塚本さと先生ゆかりの資料館での展示(五個荘地域イベント「ぶらりまちかど美術館・博物館」に一部展示協力)

#### ・常磐祭

渋谷キャンパス：10月13日(土)、14日(日) 703教室  
日野キャンパス：11月 3日(土)、4日(日)  
本館362教室

#### ・下田歌子賞表彰式

下田歌子の名を冠にいただくことで、その業績を顕彰し、エッセイや短歌を募集している「下田歌子賞」も今年で16回目(テーマ：志 一夢・願い)を迎えました。恵那市岩村町で行われた表彰式に今年も列席し、併せて特別展示を行いました。

日時・場所：12月15日(土)、  
岐阜県恵那市岩村町  
岩村コミュニティセンター

## 第2部門

第2部門は、旧女性キャリア形成研究所時代から継続実施している主催事業と、兼務研究員が学内外助成金や民間との連携事業に対する共催・後援事業を主として活動しています。

### 1. 主催事業

- ・ **講演会**(日野キャンパス常磐祭 担当：数野・牛腸)：本ニューズレターで牛腸研究員の文をご参照ください。
- ・ **社会人トーク**(担当：広井・須賀・深澤・山下)：「損保会社の仕事ってどんなことをするの？」(6月21日(木)、小野上弓枝氏、東京海上日動火災保険株式会社)。

「女性が自らキャリアを作るために皆さんにお伝えしたいこと」(10月30日(火)、三輪英子氏、株式会社wiwiw 執行役員)、「生活科学部卒業生として後輩へのメッセージ」(11月6日(火)、井上永香氏、株式会社良品計画)。

- ・内定者トーク (11～12月実施、担当：細江)：生活環境学科(2名)、食生活科学科(2名)、現代生活学科(2名)、生活文化学科(3名)。

なお、株式会社ベネッセコーポレーションたまひよ事業部との共同で「パパママカレッジ@実践女子大学(渋谷、担当：高橋)」を9月30日(日)に開催予定であったが、台風24号接近によりキャンセルとなった。

## 2 共催・後援事業

- ・リカレント教育「家庭」科 (8月22日(水)・渋谷、担当：牛腸・高橋)：本学教育プロジェクト助成事業(申請者：牛腸)。午前は細江先生と菅野元行先生の講義、午後は文科省家庭科教科調査官・筒井恭子氏のご講演。



- ・FLE 国際シンポジウム (12月1日(土)-2日(日)・渋谷、担当：高橋・細江・牛腸)：本学研究成果公開促進経費助成事業(申請者：高橋・細江)。米国、韓国、台湾と日本からスピーカーを招聘し、国際シンポジウムを開催。



- ・シニアパソコンカレッジ@実践女子大学 (12月8日(土)・日野、担当：細江・高橋)：科学研究費助成研究事業(研究代表者：細江)。NPO 法人サイバーシニアーズ・ジャパンとの共催事業。亀山氏と高橋による指導。年賀状を作成・出力。



- ・教職課程・合格体験報告会 (3回・日野、担当：清田)：東京都・特別支援家庭科(12月13日(木))、茨城県・中学家庭科(12月20日(木))、東京都・中学家庭科(1月17日(木))。

## 講演会「女性が社会を変える、世界を変える」開催報告

10月13日(土)に、本学卒業生で武蔵野市長の松下玲子氏をお招きして講演会を開催しました。タイトルは「女性が社会を変える、世界を変える」。本学園の建学の精神です。

松下氏は本学の短大国文学科から美学美術史学科に編入し、1993年に卒業。サッポロビール株式会社勤務の後、大学院で経済学を学び、政治家を志します。そして、都議

会議員2期を経て、2017年10月に武蔵野市長に就任されました。

講演会ではこうした様々な経験の中で得られたことや考えたことを率直にお話いただきました。参加者は



60名ほど。渋谷の常磐祭期間中ということもあり、多くの卒業生が参加してくださいました。

参加者からは「自己決定権を手に入れるために働くという考えに感銘を受けた」「パワフルでポジティブな姿勢に励まされた」「卒業生の活躍が嬉しかった」といった感想がよせられました。



## 出版事業

本研究所では、現在絶版になっている下田歌子の著作から、現代の社会や女子教育にも資することが大きいと考えられる作品を『新編下田歌子著作集』として復刊しています。

本年度は、2019年3月に4冊目となる『結婚要訣』を刊行する予定です。

下田歌子の『結婚要訣』は1916(大正5)年に上梓されました。下田歌子が「結婚とはどうあるべきか」という

大命題に真摯に向き合い、究明しようとした名著です。理想の結婚の一端を独自の視点から詳説した、近代の女子の生き方を探求した下田ならではの業績を読み直す好機が到来しています。



『ニューズレター』No.12

発行：2019年2月6日 編集・発行所：実践女子大学 下田歌子記念女性総合研究所

〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1 電話・FAX: 042-585-8945 E-mail: shimoda-ins@jissen.ac.jp

印刷：日野テクニカルサービス株式会社